

第11回 全国相撲指導者研修会



実技研修Ⅰ 中腰の構え



実技研修Ⅱ 相撲遊び

第11回全国相撲指導者研修会〔主催=日本武道館、日本相撲連盟、後援=スポーツ庁、勝浦市教育委員会〕は、令和6年11月15日（金）～17日（日）の3日間、千葉県勝浦市の日本武道館研修センターにおいて、講師9名、助講師1名、参加者35名が出席して開催した。

本事業は、全国で相撲を指導する小中学校・高等学校の教員および社会体育指導者並びにこれら指導者を目指す者を対象に、相撲授業における指導理論と指導法に関する研修会を実施し、専門的な知識・技術・指導法を習得した指導者を養成することを目的に講義や実践研究などを行った。

1日目（11月15日）

開講式では、主催者挨拶として安井和男日本相撲連盟副会長が、「本研修会には、保健体育の教員やクラブ活動の指導者、地域指導者など、様々な場所で活躍されている方が参加しています。研修で学んだ内容を身につけるだけでなく、参加された皆様方同士が仲良くなり、交流を深め、今後も問題点を話し合えるような関係性を築いていただきたいと思います」と挨拶した。



安井和男
日本相撲連盟副会長

続いて、同じく主催者挨拶を沢登英徳日本武道館振興課主事兼課長補佐が述べた。



■講義Ⅰ『指導法概論』：安藤均講師

中学校武道必修化の経緯を説明した後、関連する指導書を紹介。また、相撲を教材として取り入れることの魅力や意欲を高めるための工夫に触れるとともに、相撲は安全性に配慮すれば自由度の高い競技であることを説いた。

■講義Ⅱ『相撲の科学』：桑森真介講師

相撲の科学を指導に活用するため、体重差が及ぼす影響や当たりの強さ、土俵の大きさなどについて測定結果を示した後、授業で指導する際には、体重別の班で試合を行うことや立ち合いは接触した態勢から始めること、土俵を規程より広くすると良いなど、体の大きさが勝敗に及ぼす影響を軽減させる工夫を紹介した。

■実践事例紹介：石崎恵嗣講師

富山県南砺市立南砺つばき学舎の石崎講師が、同校の相撲授業実践例を紹介した。



石崎講師による相撲授業の
実践事例紹介

事前の調査では、女子生徒に大きな抵抗感があった

ため、超軽量級の女性の外部指導者を招聘したり、簡易まわしではなく相撲パンツを着用させるなど、抵抗感を拭うことから始めた点について紹介があった。経験豊富な外部指導者や全国大会上位入賞の高校生に協力してもらったことは、相撲の特性や魅力を知ってもらう上で有効であったと成果を述べた。

■実技研修Ⅰ『相撲の基礎とその指導法』：

上村裕一講師、村田安啓助講師

基本動作や基本となる技を全員で行った。受身では、高い位置から受身をとる生徒がいるが、蹲踞した状態から前回り受身をするスムーズにできる。それでも怖い場合には、片膝をついて前回り受身をするという良いアドバイスがあった。

■講義Ⅲ『指導計画』：

満留久摩講師、長浦卓也講師

2日目の模擬授業に向け、指導計画作成時のポイントについて、配布資料をもとに確認した。

2日目(11月16日)

■講義Ⅳ『安全管理・指導(1)』:安藤講師

学校における危機管理として、緊急事態発生時の対応や救急救命体制を確立しておくことの重要性を説いた。また学校におけるスポーツ事故を防ぐためには、①段階的な指導、②受身と中腰の構え、③ルールや禁止事項を工夫するなどの安全面に配慮するとともに、指導者は常に「事故が起こるかもしれない」という意識で予知・予防を徹底してほしいと呼びかけた。

■講義Ⅴ『安全管理・指導(2)』:南和文講師



南和文 日本相撲連盟
会長による講義

脳振盪^{のうしんどう}について、それが起きるメカニズムや症状を紹介。また、警告症状として、ものが二重に見える、意識が低下するなど、一つでも当てはまる時にはすぐに救急車を呼ぶことを訴えた。しかし、脳振盪の

9割以上は意識を失わないため、監督やコーチ、保護者は、通常の状態との差を脳震盪認識ツールなどを用いて見極めることの重要性を詳説した。

■実践研究Ⅰ『班ごとの指導案作成』/■実践研究Ⅱ『指導の実践と観察』/■実践研究Ⅲ『研究協議』:

堀内 弥 講師・満留 講師・上村 講師・長浦 講師

相撲を初めて経験する生徒に対して、相撲の指導経験のない先生がどのように指導を行うの

かという想定で、地元・勝浦市立勝浦中学校の生徒15名の協力を得て「模擬授業」を実施した。

今回は、「相撲遊び」、「中腰の構え」、「押し」、「崩し」、「簡易試合」の5つのテーマが設定され、各班15~20分程度で授業を展開した。

「押し」の授業では、生徒同士の取り組みをタブレットで撮影し、手本映像と見比べたところ、頭の位置や腰の高さ、肘の位置に違いがあることに気づき、それらに注意しながらもう一度取り組むなど、主体的な学びを見ることができた。

模擬授業終了後には、自班の授業の進め方について振り返り、発表を行うとともに、他班の良かった点や改善点などについて意見交換を行った。

最終日(11月17日)

■実技研修Ⅱ『審判法 相撲遊び及び簡易試合』:浦嶋三郎講師、堀内講師

浦嶋講師による審判法の概要説明に続き、全員で審判の動作等を実践。その後、堀内講師指揮のもと「手押し相撲」、「巻きかえ相撲」、「引き合い相撲」、「びよんびよん相撲」、「押し合い相撲」、「寄り合い相撲」、「簡易相撲」の7つの相撲遊びを用いて、5班によるトーナメント戦を行った。

◇

閉講式では沢登振興課主事兼課長補佐が代表者に修了証を授与、桑森講師が講師講評を行った後、浦嶋三郎日本相撲連盟参事が主催者挨拶を述べ、全日程を終了した。

模擬授業の様子(地元中学生を対象に実際の授業形式で相撲の指導を体験)



「相撲遊び(蹲踞相撲)」の指導



「中腰の構え」の指導



「押し」の指導



「崩し(いなし、出し投げ)」の指導



「簡易試合」の指導



ICTを活用した振り返り